

7月の水・土壌・大気部会での公共用水域モニタリング見直し(琵琶湖)に係る主なご意見

参考 1

	ご意見	ご意見に対する回答と対応方針
測定頻度や地点数について	<p>・琵琶湖に流入したリンが外部に出ていくまでにだいたい20年ぐらい必要。そのため、琵琶湖の総合開発で人間の影響が強くなってきた後の影響については、まだまだ評価データが少ない状況。</p> <p>・今は地球温暖化の影響で琵琶湖の鉛直循環も起こりにくくなっている状況がある。雨の降り方も、ゲリラ的に局地的に降るようになったので、水の動きや、湖水の循環みたいなものも変わってきている。</p> <p>・予算削減などにより、琵琶湖のことをより深く詳細に知る機会が失われていくことを食い止めた。私どもも協力するので、測定地点数の現状維持はお願いしたい。</p> <p>・琵琶湖全体に渡る平面的なデータが必要。</p> <p>・琵琶湖保全再生法が数年前にできて、琵琶湖は国民の貴重な財産であると法律で決められた。国民的理解を得るためにも、琵琶湖のことを深く知るための体制は現状を維持していただきたい。</p> <p>いろいろなこと、分からないことなどのデータをまだまだ蓄積していく必要がある。琵琶湖は国の財産であり、滋賀県の財産でもあるが、世界的にも重要なこと。経済的な課題はあると思うが、最低限、現状を維持していただきたい。 可能ならば、今よりも頻度と測定地点を増やしていただきたい。</p>	<p>現在よりも頻度や地点数を増やすことは困難であるものの、今後の具体的な見直しに当たっては、現在の調査地点数、項目および頻度を基本とした上で、必要となる体制等の確保という観点からも併せて検討を進めたい。</p>
測定方法について	<p>予算や人手などが限られているということで、地点を再検討すると記載されているが、現状の方法をより効率化することを検討いただきたい(例えばサンプリングの自動化等)。</p> <p>また溶存酸素濃度を測定するならば、その場で測定することも可能と思う。</p> <p>新しい技術開発を利用した方法の中で、効率化を検討していただきたい。</p>	<p>測定局設置などが必要となるサンプリングの自動化は困難であるものの、様々な測定機器の性能向上などを踏まえた効率的な測定方法を検討したい。</p>
予算について	<p>予算が限られた中で、船や機材が老朽化していることを議論されていますが、滋賀県が一番大事にする必要があるのが琵琶湖であり、環境系の部局のみで考えることなく、滋賀県知事や、更に上の役職で考えていただくべき。</p> <p>予算が削られるのは、仕方がないと思うが、一番大事なこと(琵琶湖)に関係する予算まで削ることは許せない。</p>	<p>水質測定を行う目的を達成するために必要となる体制等の確保という観点からも併せて検討を進めたい。</p>
国レベルでの対応	<p>今は琵琶湖保全再生法があり、琵琶湖は滋賀県だけの問題ではない。そういう意味では、本日出席している国土交通省琵琶湖河川事務所と水資源機構などの国レベルの機関が考えるべき。国に頑張っていただきたい。</p> <p>先日、バイカル湖で排水規制を緩めるという情報があった。世界中の研究者が反対の意見表明を行い、日本陸水学会としても反対声明を送った。世界30か国から多数の反対声明が集まり、ロシア政府は排水規制の緩和を止めた。現在では、海外からも委員を入れて、どのような排水規制を行えばバイカル湖の水質を維持できるのか、議論を始めたところ。</p> <p>琵琶湖は世界的な遺産という意見もありましたが、バイカル湖同様、我々委員も協力するので世界中から声をあげて、国に琵琶湖の保全に向けた声明を出すことも考える。</p>	<p>国交省(琵琶湖河川事務所)等の意見や考えもしっかり伺ったうえで検討していきたい。</p>